

東北農業経済学会 Newsletter ◆ 2017 春号

山形大会の開催について

2016/17年度の研究大会は8月25日(金)～26日(土)、山形県鶴岡市で開催されます。詳しくは大会案内をご覧ください。最新版は学会ホームページに随時掲載します。

8月25日(金)に開催される今年度のメインシンポジウムでは、昨今の水田農業をめぐる情勢の変化を踏まえて、「東北水田農業の近未来」をテーマに掲げて議論を行います。多数のご参加をお待ち申し上げます。

また、8月26日(土)には個別報告も開催されます。積極的にエントリー下さるようお願いいたします。

2016/17年度学会賞候補者の推薦について

本学会では、東北農業の発展と農業経済学の発展を期することを目的に、東北農業並びに農業経済学に関する顕著な業績に対し、東北農業経済学会賞を授与しています。2016/17年度の学会賞候補者の推薦を下記により受け付けます。一般会員からの推薦も受け付けることになっていますので、積極的に推薦して下さるようお願いいたします。

1. 学会賞の種類：学術賞、奨励賞、実践賞
2. 候補者の要件：学会賞受賞者の資格は原則として東北農業経済学会の会員とする。また、実践賞の受賞者は普及指導員、営農指導員、農業者（農業法人を含む）、関連機関職員等東北農業の発展に貢献し得るすぐれた実践を行った者及びそれを記録した者とする。但し、奨励賞の受賞者は原則として40歳以下の会員とする。

3. 学術賞、奨励賞の対象とする研究業績は2014年4月～2017年3月末日までに刊行されたものとします

4. 提出書類：

①推薦書(1部)：学会賞事務局にご連絡いただければ、用紙等をお送りいたします。また、学会ホームページからも入手できます。

②関係資料(9部、コピー可)：推薦書で参照される著書や論文等の主要な業績

5. 提出先：

学会賞選考委員会事務局

〒020-0198 盛岡市下厨川字赤平4

農研機構東北農業研究センター

生産基盤研究領域 宮路広武

TEL 019-643-3494、E-mail:hirotake@affrc.go.jp

6. 提出期限：2017年6月30日(金)

2017/18年度研究助成の募集

当学会では、若手研究者の育成を目的として研究助成事業を行っています。この度、2017/18年度の研究助成を募集します。応募要領は以下のとおりです。

1. 応募資格：助成申請時点で本学会会員である大学院生（オーバードクターを含む）ならびに農業改良普及指導員等

2. 助成額：1件当たり10万円程度、総額20万円以内で毎年2件程度

3. 応募方法：所定の申請書（学会賞事務局にご連絡いただくか、学会ホームページ

<http://aestohoku.jimdo.com/>

からダウンロードして下さい）にご記入の上、下記学会事務局に提出して下さい。

4. 提出先：

〒980-0845

仙台市青葉区荒巻字青葉468-1

東北大学大学院農学研究科資源環境経済学講座気付
東北農業経済学会事務局 あて

TEL : 022-757-4209 FAX : 022-757-4185

Email : tohoku-agriecon@bios.tohoku.ac.jp
(東北大学の移転に伴い住所が変わりました)

5. 提出期限 : 2017年7月28日(金)

※周辺の大学院生や普及指導員の方々に紹介いただければ幸いです。

役員の変動

所属先の人事異動に伴い、本学会で委嘱している役員にも一部異動が生じたのでお知らせします(役員一覧は学会ホームページに掲載、随時更新します)。

◆ 評議員

菊池政洋 → 中村英明(岩手県農林水産部)
江畑正徳 → 伊藤吉晴(宮城県農林水産部)
齋藤 了 → 山本拓樹(秋田県農林水産部)
工藤郁也 → 結城和博(山形県農林水産部)
芳見 茂 → 武田信敏(福島県農林水産部)
井上久雄 → 沢田吉男(福島県農業総合センター)

論文投稿の募集

編集委員会では、多くの会員の皆さんから論文投稿をお待ちしております。原稿は和文・英文どちらでも結構です。分量は和文で最大22,000字(印刷頁数で12頁)が目安です。なお、詳細については学会ホームページ(<https://aestohoku.jimdo.com/>)の「会則・規程」の『農村経済研究』投稿規程をご覧ください。投稿先、問い合わせ先は以下の通りです。

東北農業経済学会『農村経済研究』
編集担当理事 川島 滋和 あて
宮城大学食産業学群
〒982-0215 宮城県仙台市太白区旗立2丁目2-1
TEL : 022-245-1257 FAX : 022-245-1534
E-mail : kawashim@myu.ac.jp

会費納入・住所変更など

会費を滞納されていませんか? **滞納が続きますと、会誌の送付を停止させていただくこととなりますのでご注意ください。**納入は随時受け付けておりますのでお支払い願います。振込金額等のお問合せは下記学会事務局まで願います。

なお、2017/18年度(2017年9月~18年8月)会費の請求書及び払込用紙は11月頃にお届けする予定です。よろしく願います。

また、**異動や卒業・修了等により、住所や所属先等が変更になりましたら、学会事務局あてご連絡下さるよう願います。**

東北農業経済学会事務局

TEL : 022-757-4209 FAX : 022-757-4185

Email : tohoku-agriecon@bios.tohoku.ac.jp

会誌論文の転載について

過去に本学会誌である「農村経済研究(旧名:東北農業経済研究)」に掲載された論文を、所属機関発行のリポジトリ(紀要)や報告書等へ転載しても良いかという問合せをいただくことがあります。

本学会では、会誌に掲載された論文の著者が、自らの論文を転載することを妨げておりません。したがって本学会に承諾を得る必要はありません。ただし、共著者からの承諾などは、著者自身の責任において行ってくださいよう願います。



編集後記

◆東北にとって大きな与件変動となる米政策見直し但目前に迫る中、山形大会では数年ぶりに水田農業をテーマとしたシンポジウムが開催されます。多数のご参加を願います。◆「会員のよこがお」コーナーの特別編を企画しました。今後も、折を見て諸先輩方にもご登場いただきたいと思います。よろしく願います(N)

[次号2017年秋号は11月頃発行予定です]

■ ■ 会員のよこがお ■ ■



水木麻人さん

みずき あさと

東北大学大学院農学研究科 助教

青森県弘前市出身。東北大学大学院農学研究科博士課程後期修了。青森県職員を経て2015年10月より現職。

このコーナーでは、研究から一歩離れて、会員の人となりアプローチします。今回は、学会の事務・会計を担当されている水木さんからお話をうかがいました。

——水木さんには、昨年の9月から本学会の名簿管理や会計など、事務局の仕事をお願いしています。実際に担当してみていかがですか？

これまでは一般会員として学会との関わりは、学会大会の参加・報告程度でしたが、事務局として携わるようになってからは、裏方の仕事が思っていた以上に多く大変だなと感じました。ただ、事務局の仕事を通じて、本学会を含めた農業経済関連学会の現状や学会と社会の関わり方などに触れる機会が多いので、普段なかなか意識することのない部分を考えられるところはやりがい？だと思います。

——大学の仕事の傍ら、業績にもならないめんどろなお仕事をお引き受け下さりありがとうございます。結構ストレスになることもあると思いますが、どんな息抜きをされているのでしょうか？

最近はなかなか行けていないのですが、去年は時間があれば研究室の学生とラーメンの食べ歩きをしていました。若い学生に負けじと、今流行りの大盛ラーメンを食べては、その後で食べなければ良かった…



写真 付箋が剥がれにくいボード

と、後悔することが多々ありました(笑)。でもまたしばらくすると食べたくなるという不思議な中毒性があるのでとても危険な食べ物ですね。おかげで妻に痩せる、痩せると言われ続けながら、なかなか痩せられずにいます。去年の卒業生からは、頑張ってダイエットしなさいという警告なのか、腹筋ローラーをプレゼントされました(開封はしたけど、まだ使っていません・・・)。

——かなりラーメンに偏った消費者選好をお持ちのようですね。実は私もラーメンに毒されています。大盛りの魔力には勝てません。腹筋ローラーにも中毒性があればいいんですけどねえ。ところで、このパネルは何ですか(写真)。新型のダイエット器具？

いえいえ、これはKING JIMの電子吸着ボードラックです。最近購入して使い勝手が良かったもので。付箋をパソコンのディスプレイの周囲に貼ったりする方はいると思いますが、粘着部分が弱かったりしてしばらくすると剥がれ落ちてしまうことが難点でした。しかし、この電子吸着ボードは、静電気の力で紙を吸着させているので、付箋に限らずメモ用紙を吸着させて剥がれ落ちる心配がないという優れものです！締切が近い仕事の付箋やちょっとしたメモ書きをこれ一つにまとめることができるので、机の上が整理されてスッキリできます。

——なにやら通販番組みたいな紹介になってますが(笑)、確かに便利そうです。ディスプレイに付箋を貼り付けるのは風水的に良くないという話を聞いたことがあります。これなら問題ないですね。ラーメン屋のリストも片っ端から貼れそう？

ただ、唯一の難点は、購入してから気づいたのですが、利用者のレビューによると使い始めて約1年間で静電気の力が弱くなり、貼っても剥がれ落ちてしまうことがあるそうです。

——まあ、それはご愛嬌ということで。剥がすのを忘れることもあるので、ちょうどいいかも。

学会事務に研究に、お忙しいと思いますが、今後ともよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

■主な業績

水木麻人(2016)「環境保全米の消費者選好の多様性に関する分析」『農業経済研究報告』47巻。

水木麻人(2013)「環境保全米の消費者評価分析—宮城県登米市南方産米を対象として—」『フードシステム研究』20巻3号。

(聞き手 秋田県立大学 中村勝則)

■ ■ 会員のよこがお・特別編 ■ ■

酒井 惇一 名誉会員

さかい じゅんいち

山形県山形市出身。東北大学名誉教授。1992～1995年度 東北農業経済学会長。『農業資源経済論』（1995年）ほか著書・論文多数。

若手会員を中心に紹介してきた本コーナーですが、大先輩のお話も伺うべきではないかということで、今回は特別編を企画。元学会長の酒井惇一先生をお訪ねしました。

——先生は「随想・東北農業の七十五年」というブログを書かれています。2016年5月30日の日本農業新聞「四季」欄でも紹介されていました。2010年12月から始めて足掛け7年。現在も週に1度のペースで投稿を続けていらっしゃいます。すさまじいエネルギーです。ブログを始めたきっかけは何でしょうか？

農家の長男として生まれ、研究者として長年、農村を歩いてきました。農家をはじめ、いろいろな方々からお話をうかがいました。そして論文や報告書という形で公表してきました。

しかし、論旨から逸れるために書かなかったことや、研究発表には向かないけど面白い話、記録にとどめておくべき話が数多くありました。このまま放っておくと消えてしまう。なかったことになってしまう。それはあまりにもったいない。書き残すことが私の責務なのではないかと感じたわけです。

ただ、出版となるとお金もかかる。そんな時、後輩研究者からブログなら費用も殆どかからず、分量も気にせず書けるのではと提案がありました。それも手かもしれないと、開設することにしました。まさかこんなに続けられるとは思っていませんでしたが。

——私も全てではありませんが（謝）、拝見させていただいております。それにしても面白いエピソードが沢山ありますね。どうやって聞き出したのか気になるところです。おそらく先生が相手だと、ついつい喋りたくなるんでしょうね。まさに神ヒアリングですね。

すぐ流行り言葉を使うのはやめなさい（笑）。

——申し訳ありません、教え子失格です（汗）。ところで、ブログへの反響はいかがでしたか。

オンラインカウンターによる閲覧者数は累計5万人となっています。また、たまにですが、コメントを下さる方もいます。中には、記事の内容について詳しく取材させて欲しいとの依頼もありました。

——さてそのコメントをいくつか拝見しますと…、「これ出版して欲しい！」に始まって、「農業・農村の現場に最も密着し、個々の真実の記述に徹した文学作品・小説ともいえる名文」、「戦後75年の東北農業・農村史をこれほど克明に、しかも生き生きと描いている文献をみたことがない」などとあります。さらに、「自らの体験に基づいた、熱い血が通った記述と、どの地域農業にも通じる農業・農村経済法則を描き出す論考とが密接不可分に結合した全く新しい研究領域であり、新しい研究方法」と、研究的価値も高く評価されています。

ちょっと気恥ずかしいですが、励みになっています。ともかく私は、自分が過ごした時代の苦悩を次の世代に味あわせてはいけません。そのためには何とかして語り継いで行かなければならない。ただその一心で毎日パソコンに向かい、キーボードを叩いています。一本足ならぬ一本指打法ですが（笑）。

——それであの生産力ですか！本当に頭が下がります。昔、研究者に必要なのは情熱だと聞いたことを改めて思い出します。そんな大先輩の奮闘を受け、これからの東北農業経済学会はどうあるべきでしょうか。何か注文がありましたらお願いします。

とにかく真面目に学問をして欲しい。その一言に尽きます。最近の研究大会に参加していませんが、会誌など見ていると、優良・先進事例の紹介に留まっているのではないかという気がします。つまり、その事例がいかに素晴らしい対応をしているか、他の経営も学ぶべき、というものです。もちろんそうした評価も重要です。しかし、研究者は評論家やコンサルになるべきではない。資本が農業・農村を支配していく過程に位置づけ、批判的に検討することも一方では必要です。その上で資本に支配されないためには何が必要なのか明らかにしていく。そうした批判精神が足りないのではないのでしょうか。

あ、すいませんね、もう引退している身なのに。現役の皆さんは大変な時代だと思いますが、農業・農村の発展に、ぜひ学問で貢献して欲しいと思います。

——激励として受け止めたいと思います。ありがとうございました。残念ながら詳しくはブログで、ということにせざるを得ません（下記URL）。いつかブログが出版される日が来ることを祈っております。

ブログ「随想・東北農業の七十五年」URL
<http://jlsakai.blog129.fc2.com>

（聞き手 秋田県立大学 中村勝則）